龍光山 円清寺

黒田家ゆかりの品を多数所蔵

本寺は、福岡藩主黒田長政の父孝高公（官兵衛、如水）が亡くなった時に、杷木志波以東の領地を任されていた麻氏良城主である黒田藩家老栗山備後利安が、主君孝高公の菩提を弔うために建立したもので、山号寺号もその法名「龍光院如水円清居士」に因んだものです。

円清寺

▲**黒田如水画像**（県指定文化財：円清寺蔵）

備後利安が、如水の冥福を祈るために建てた円清寺に寄贈した

慶長９年（1604）如水没後に描かれたものを、備後利安が、如水の冥福を祈るために建てた円清寺に寄贈したものである。讃は千光寺住職、宗儒和尚の筆で如水の経歴、事跡などと共に備後利安の家系や円清寺建立のことなど誌されたもので、漢文で書かれた1000字近くの長文である。この讃の中で一部消滅された部分がある。これは如水がかつてキリスト教に入信して洗礼を受けたことがあり、このことが文中にあり、当時の幕府をはばかって、この箇所を消したものである。

▲**栗山備後利安画像**（市指定文化財：円清寺蔵）

如水から贈られた合子の兜

備後利安が鎧兜を着用して数皮の上に安座している図柄で、横にかかっている兜は、如水から贈られた合子（ごうす）の兜である。

▲**黒田長政画像**（市指定文化財：円清寺蔵）

黒田長政戦陣の姿

長政が鎧着用のうえ床几に腰をおろし、水牛の兜を被っている戦陣の姿である。この画像の裏面には寛永３年（1623）３月、林道春撰の文字が記されている。長政が亡くなった３年後に描かれたものと思われる。

秋月郷土館の名品

黒田家ゆかりの品々と美術品の数々

秋月郷土館は、秋月黒田家所蔵の藩政時代からの遺品類を核として、昭和40年に、杉の馬場に位置する旧戸波邸に開館しました。昭和50年には、土岐勝人氏からの貴重な美術品（土岐コレクション）の寄贈、秋月にゆかりの方々からの浄財の寄付、貴重な歴史資料・美術品の寄贈を得て、北に隣接する秋月の藩校「稽古館」跡地に「郷土美術館」を併設しました。

秋月郷土館

▲**島原陣図屏風戦闘図**　斉藤秋圃

島原の乱での戦闘の模様を描いたものである。とくに、秋月初代藩主長興の活躍がビジュアルに描かれており、見応えのあるものになっている。藩主長興は、律管脇立兜を被り、一本松の傍の本陣に座している。

▲**巴瓦前立筋兜 紺糸威胴丸具足**

この前立には次のような話が残っている。島原出陣の出発の日に、暴風で玄関の巴瓦が落ちた。家臣たちは、「間が悪いので出発を延期しては…」と進言したが、藩主長興は予定通り出発し、島原で大活躍をして凱旋した。そのことを記念して、この巴瓦の前立が製作されたといわれている。初代藩主長興所用の具足である。

銀箔押蛤脇立突盔形兜▲

黒田長政愛用の兜で、初代長興が譲り受けたもの。口伝に関ヶ原の戦いで長政が着用し敵将と水中で一騎討ちをしたとある。その際兜の先が水面に見えたので、家臣が水中を流れる長政を発見し、川に飛び込んで救出して、事無きを得たといわれている。

▲**霊峰不二**　横山大観

大観は、水戸市に生まれ、明治22年（1889）に東京美術学校の開校とともに入学。昭和12年（1937）に第１回文化勲章を受章している。大観は、明治から昭和にかけての60余年間に、多くの富士山を描いている。大観の戦後の富士山は、富士と松と雲を組合わせたものが多くなった。本作品は、その一連であるが、湧き立つ雲の形が変化に富んでいる。

▲**湯浴する女** Auguste RENOIR

妻アリーヌがこの世を去った後の、ルノワールのアトリエに活気をもたらしたものが、モデルのアンドレであった。この娘をモデルにルノワールは数多くの作品を描いた。これもそのなかの１点と思われる。